

2023年度開催

Waffle Camp ホームタウン

開催レポート

はじめに

女子およびジェンダーマイノリティの中高生を対象にIT教育プログラムの提供とキャリア支援を全国的に行う「Waffle Camp ホームタウン」を2023年7月から2024年3月31日に全国17都市（北海道札幌市、千葉県印西市、神奈川県横浜市、新潟県長岡市、福井県、長野県駒ヶ根市、長野県上伊那地域、京都府京丹後市、兵庫県、兵庫県神戸市、兵庫県豊岡市、徳島県徳島市、福岡県福岡市、長崎県、長崎県長崎市、鹿児島県）にて開催し、159名の生徒が参加し、全体満足度は平均4.86(5点満点中)を獲得しました。

受講者からは、「初心者私にも分かりやすいようにゆっくり分かりやすくアドバイスして下さい、とても楽しかったです!」「苦手な分野だったのですが、この講座を受講し少しだけ自分に自信がついた!メンターさんたちが優しく教えてくれて嬉しかったです!」「全部答えを教えてくれるのではなく、考えるところも残しながらの教えてくれたので、面白かったです。」といった声をいただいています。

Waffle Camp ホームタウン開催の背景

Waffle Camp ホームタウンは、開催地域の中高生を対象に1日でhtml/CSSを用いたWebサイト制作を体験してもらう無料講座となっています。IT分野のキャリアをイメージできるよう、ロールモデルとして現役の女性エンジニアによるキャリア講演をプログラムに組み込んでおり、IT分野への進路支援を意識したプログラムを提供しています。

Waffleは、「IT・理系への苦手意識をなくし、関心を高める」ために2020年より「Waffle Camp」を開始し、2022年からは、今までITに触れる機会が少なかった中高生にも、広く興味を持ってもらう機会が重要だと考え、その趣旨に賛同する企業の協力の元、日本全国で「

Waffle Camp ホームタウン」を無償にて開催しています。これまでに、360名超の中高生が参加し、参加者のプログラミングの関心度が向上したり、将来の理工系・IT系への進学希望者が約3倍に増加するなど、IT分野のジェンダーギャップの解消と中高生のキャリア支援へ貢献しています。

Waffle Camp ホームタウン開催概要

開催期間：2023年7月1日～2024年3月31日

参加費：無料

参加対象：開催都市に居住地がある女子及びジェンダーマイノリティの中高生

内容：1日あるいは2日間でHTML/CSSを使ってオリジナルのウェブサイトを作成します。また、現役の女性エンジニアによる「ロールモデルとの対話」を組み合わせており、参加者のIT分野への進路選択も支援いたします。

2023年度の取り組みについて

本年度は新たな取り組みとして、メットライフ生命保険株式会社様、デロイト トーマツグループ合同会社様、株式会社ヌーラボ様より、当日の会場を提供して頂きました。兵庫県と長崎市のWaffle Campはメットライフ生命保険株式会社様の会場で、福井県のWaffle Campはデロイト トーマツグループ合同会社様の東京オフィスで、福岡市のWaffle Campでは株式会社ヌーラボ様の福岡本社での開催となりました。参加者は社員の皆さまの働いている姿を直に見ることができた上、最新設備の整った会場での受講となりとても良い経験となりました。

開催結果

前年度（2022年度）に比較して、参加人数が約1.7倍となり（2022年度：96名）、また参加した自治体の数も9自治体から17自治体に増えました。このうち、札幌市、上伊那、福井県は2年連続の開催となり、横浜市においては2021年度以来3年連続での開催となりました。徳島市は2021年度以来2度目の開催となりました。

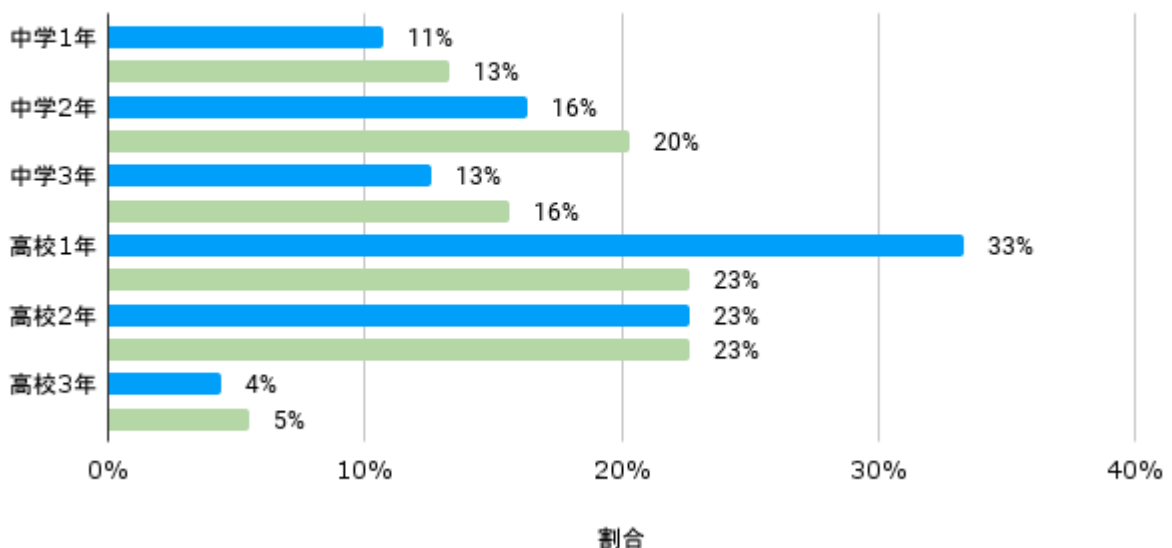
開催参加者について

参加者の比率は中学生・高校生ではほぼ同等

約8か月にわたり全国17都市で開催されたWaffle Campホームタウンプログラムには延べ159名の女子中高生が参加しました。高校生が参加者全体の60%を占めており、学年別に見ると高校1年生が多数（全体の33%）となっています。この理由として福井県では県の事業として高校1年生を中心に募集をかけたことが挙げられます。福井県の高校1年生を除外した場合は高校生、中学生の割合がほぼ同じくらい（各50%、49%）となります。また学年別では高校1年生と高校2年生の全体に占める割合が同じくらい（福井県の高校1年生を除くと、各23%）となります。

学年別参加者の割合

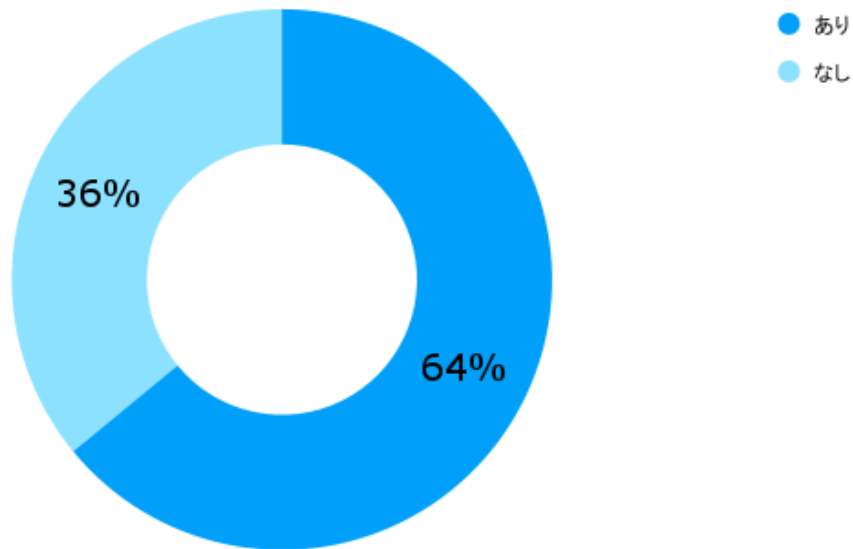
（緑の棒線は福井県の高校1年生を除いた場合）



参加者のプログラミングスキルについて

事前のアンケートの結果を見ると、プログラミングの経験（スクラッチ、JavaScript、Python、マイクラフト、HTMLなど）については経験者が64%となっています。また、コンピューターの使用頻度については全体の75%がほぼ毎日か週に1・2回は使用すると回答しており、コンピューター操作に慣れ親しんでいる参加者が多数を占めています。

参加者のプログラミング経験



保護者や学校の先生がWaffle Campホームタウンへの参加のきっかけ

Waffle Campホームタウンに参加するきっかけとしては7割近くの参加者が保護者または学校の先生に勧められて参加しています。また、5割の参加者は今まで学校外でのイベントには参加したことがないと回答しています。さらに、学校外のイベントに参加したことがあっても、IT・プログラミング関連のイベントに参加したことがあるとした回答者は僅か7%となっています。アンケートの結果から保護者や学校の先生の理解と協力が欠かせないことがうかがえます。

Waffle Campに参加するきっかけ

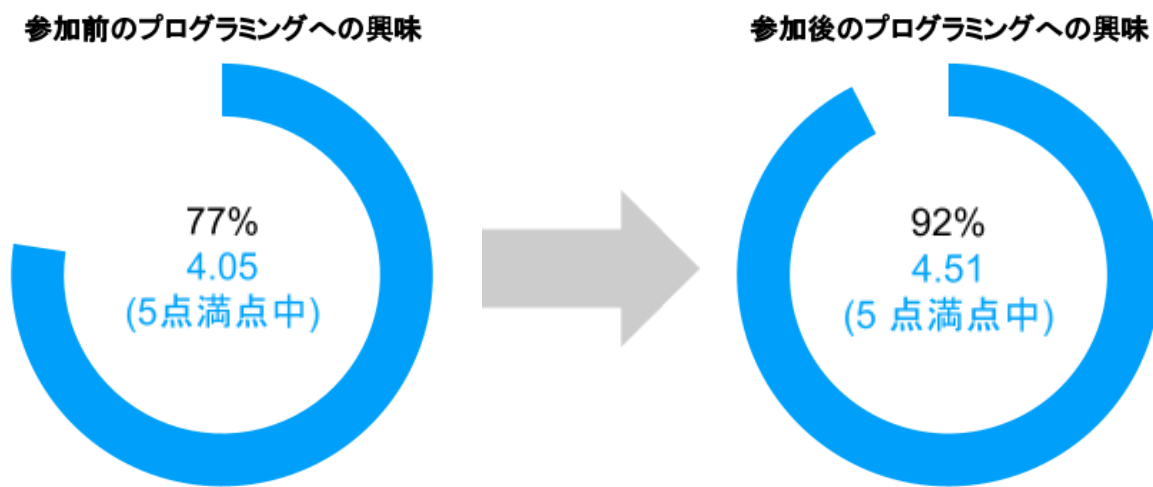
保護者に勧められた	25%
学校の先生に勧められた	42%
SNS、チラシ、説明会など	4%
自分で見つけた	7%
友達に誘われた	6%

学校外で参加したことがあるイベント

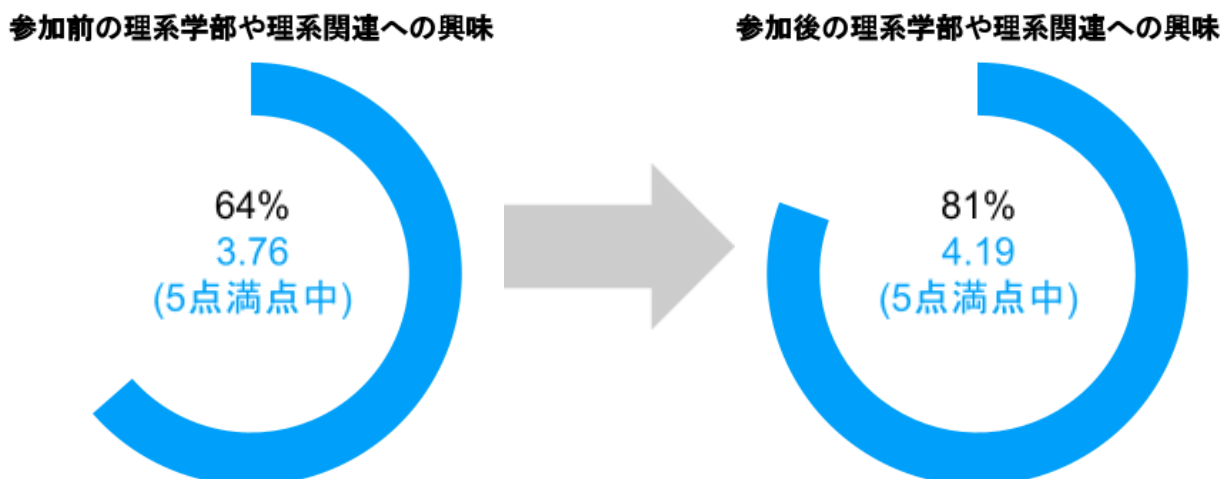
参加したことがない	52%
ボランティア	18%
IT・プログラミング関連	7%
進路/文理選択系	9%
SDGs関連	7%
回答なし	7%

プログラミング・理系への進路についての興味の変化

プログラミングへの興味、理系学部や理系関連への興味の変化に関してアンケート調査を実施したところ、参加の前後で2つの項目で、5段階評価（1=全く興味がない、5=とても興味がある）で興味の向上という結果を得ました。参加前はプログラミングへの興味があった回答者は77%だったのに対して、参加後は92%に増えています。また、5点満点中参加前は平均4.05でしたが、参加後は平均4.52と約11%向上しています。



理系学部や理系関連への興味についても参加後には変化が見られます。参加前は理系学部や理系関連への興味があった回答者は64%だったのに対して、参加後は81%に増えています。また、5点満点中参加前は平均3.76でしたが、参加後は平均4.20と12%向上しています。



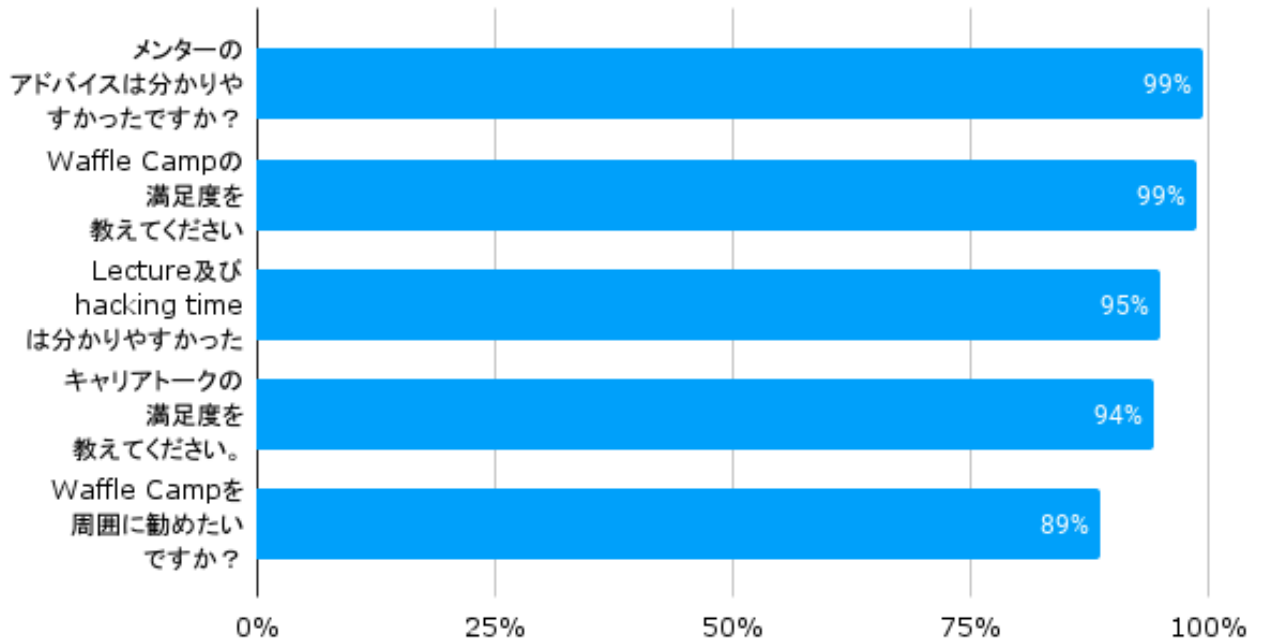
将来どのような勉強または仕事をしたいかという問いに対して記述してもらったところ、受講後は理工学・IT系の勉強または仕事を希望していると回答した参加者は全体の58%となりました。そのうちの39%は受講前は理工学・IT系以外の勉強または仕事に興味があると回答していましたが、Waffle Campホームタウンに参加したことで、将来の進路や仕事として理工学・IT系に関心を持つようになったようです。

進路希望の変化

受講前	受講後
心理カウンセラー等、人を支える仕事を目指しています。	エンジニアの城井さんのお話を聞いてエンジニアなどのITについてのお仕事にも興味を持ちました。
まだわからない	エンジニアもいいなと思った
化粧品会社の企画をしたいです	受講前、プログラミング分野には、難しそうとかつまらなそうなど、否定的なイメージがあったけれど、HTMLやCSSなどの仕組みやコードなどを詳しく教えていただいて、抵抗がなくなりました。ウェブサイト作成が思った数倍楽しかったので、情報系の仕事に就いてみたいなと思いました。
まだ将来の夢は決めていないので、いろいろな分野に関心があります。その中の一つとして、UI/UXデザイナーに興味があります。	今、情報の格差が問題になっていると思います。その中で誰もが使いやすいアプリを作る仕事に興味が出ました！
公務員になりたいと考えている。	受講前は公務員を考えていたが、IT関係の進路にも興味を持った。

また、同質問に対して記述してもらった回答をテキストマイニングツール（User Local）を使用して解析したところ、参加後はエンジニア、プログラミング、IT企業、理系、サイトといったワードが新たに加わったり、増えていることがわかりました。

満足度に関する5つの質問に対する個別評価（横浜市除く）



参加者の声

Lectureやメンターのアドバイスで良かった点として、「アドバイスが的確で分かりやすかったです。」「みんな優しく、困った時にすぐに駆けつけて教えてもらってよかった。」「メンターさんがチャットでの質問だったのにもかかわらず、こちらの意思を正確に汲んでくださったのでとても嬉しかったしありがたかったです。」「何か質問されても安易に答えるのではなく、まず自分たちで調べさせているところが良いと思いました。」と回答しています。

キャリアトークに関しては、「数学が苦手でもエンジニアになれると聞いて驚きました。」「大学卒業後の進路変更をされる人も多く、やりたいことをすることの大切さを学ぶことができた。」「文系（出身）のエンジニアが多いことに驚いた」「ITは難しいイメージしかなかったけど、中でも色々な人がいて、色々な生き方ができると知れて良かったです。」といった声があり、今まで参加者が抱いていた理系へのイメージや考え方にインパクトを与え、変化をもたらした要因となっているようです。

まとめ

以上の結果からWaffle Campホームタウンのインパクトをより高めるためには、プログラミングやコーディングの未経験者や、理系への興味があまりない女子中高生の層にどれだけ抵抗感なく参加してもらうかが鍵になるものと思われます。そのためには、まず保護者や学校の先生にWaffle Campホームタウンを理解してもらうような働きかけが重要なポイントだと考えております。本講座開催前に保護者（PTA含む）や学校関係者に説明会を開催している自治体がありました。今回は京丹後市と鹿児島県がWaffle以外の団体のイベントも含めた保護者向けの講演会を開催しており、両自治体の講演会に参加した保護者や学校関係者は合計約150名となっています。

Waffleではキャリアトークへの登壇者の適切な人選はもちろんのこと、講師・メンター陣のクオリティの高さを維持するよう、IT系のキャリアに興味がある女子大学生・院生向け研修「Waffle College」の活動にも力を注いでいます。Waffle Collegeでは所属する学校や学部、文系・理系にとらわれず、プログラミングを学んで自分らしいキャリアを築きたいという学生のためにエントリーコース（2週間）とキャリアテックコース（8か月間）の2コースを提供しています。両コースとも参加費用は無料となっています。Waffle Campホームタウンのメンターはエントリーコース修了生から選抜してトレーニングを実施し、Waffle Campホームタウンに派遣しています。今回はWaffle Collegeの卒業生、大学生インターン等の49名のメンターが参加しました。

また、Waffleでは常に業務プロセス改善を意識して次のWaffle Campホームタウンに反映出来るように努力しており、より良いプログラムとなるようにスタッフ一丸となり運営していく所存でございます。

メディア掲載情報

Waffle Campホームタウン開催について、多くのメディアで取り上げていただくことができました。

自治体	メディア名
札幌市	北海道新聞
千葉県	ケーブルネット296
駒ヶ根市	信濃毎日新聞
福井県	毎日新聞 福井新聞
京丹後市	ACTV京丹後局
豊岡市	神戸新聞
兵庫県	サンテレビ
徳島市	日本経済新聞
長崎市	長崎放送 長崎国際テレビ 長崎新聞 長崎文化放送
鹿児島県	南日本新聞
上伊那広域連合	長野日報 伊那ケーブルテレビ

協賛企業のみなさま

本講座の開催にあたっては以下の企業様にご支援頂いており、Waffleスタッフ一同、心から御礼申し上げます（敬称略、順不同）。

スペシャルスポンサー

- ・メットライフ生命保険株式会社（<https://www.metlife.co.jp>）
- ・グーグル合同会社（<https://g.co/grow/education-cs>）

プラチナスポンサー

- ・デロイト トーマツ グループ合同会社（<https://www.deloitte.com/jp>）

ゴールドスポンサー

- ・ヤフー株式会社（<https://about.yahoo.co.jp/>）

シルバースポンサー

- ・サイボウズ株式会社（<https://cybozu.co.jp/>）

Waffle Camp ホームタウン in 上伊那協賛企業

- ・KOA株式会社（<https://www.koaglobal.com/>）
- ・タカノ株式会社（<https://www.takano-net.co.jp/>）
- ・株式会社ヤマウラ（<https://yamaura.co.jp/>）

以上